

世代間問題研究機構 2010年度事業経過報告

I. 連携融合事業

1. 教員の受け入れ

①専任教員

田中秀明准教授 [7月31日迄]、小黒一正准教授 (財務省) [8月1日以降]
植杉威一郎准教授 [7月9日迄]、小林慶一郎教授 (経済産業省) [8月1日以降]
池永肇恵准教授 [7月31日迄]、堀雅博教授 (内閣府) [8月1日以降]
稲垣誠一教授 (厚生労働省)

②特任講師

西沢和彦 ((株) 日本総合研究所・主任研究員) [8月1日]

③外国人特任教授

Alesandro Cigno (フィレンツェ大学)
Jae Nahm (高麗大学)
Michelle Lombradi (Maastricht University)
Katia Caldari (Universita di Padova)

④非常勤研究員

鈴木興太郎教授 (早稲田大学)
小椋正立教授 (法政大学)
玄田有史教授 (東京大学)
黒田祥子准教授 (東京大学)
土居丈朗教授 (慶應大学)
植杉威一郎氏 (経済産業研究所、7月10日以降)
臼井恵美子准教授 (名古屋大学)
中谷勇介准教授 (神奈川大学)

2. 国際共同研究の実施 (研究代表者: 高山憲之、担当はメンバー全員)

内閣府経済社会総合研究所:

テーマ: マイクロデータ分析手法を活用した労働・税制・社会保障制度に関する研究
→ 研究成果報告会 (2011年2月22日、於日本都市センター)
→ 報告書 (Forthcoming)

3. 国際会議の開催

①International Workshop on Civil Service and Military Pensions, 20-21 January 2011, HCC, Tokyo.

(外国人専門家 11 人を招へい) (担当：高山)

→ プログラム・報告資料等は以下の website 参照 (構築中)。

<http://cis.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/society/conference1101.html>

②財務省財務総合政策研究所との国際会議共催・検討中 (担当：小黒・小塩)

テーマ：人材の育成・活用

日時：2011 年 2 月ごろ

→ 詳細は以下の website 参照 (構築中)。

③国際ワークショップ「世代間の政治経済学」(担当：小黒・青木)

日時：2011 年 3 月予定

基調講演者 Paul Demeny (Population Council, NY)

→ 詳細は以下の website 参照 (構築中)。

④WIPO・メルボルン大学・一橋大学イノベーション研究センター共催 (担当：青木)

テーマ：Second Asia Pacific Innovation Conference

日時：2011 年 3 月 28-29 日

場所：学術総合センター

報告者：Nancy Gallini (University of British Columbia)・Luis Cabral (University of Munich)・Carsten Fink (the World Intellectual Property Organization) 他

→ 詳細は以下の website 参照

<http://ap-in.org/2010/07/09/tokyo2011/>

4. 2010 一橋大学政策フォーラムの共催 ((株) 日本総合研究所)

テーマ：年金の将来—信頼できる年金制度の構築を目指して—

2010 年 9 月 28 日 (担当：高山・青木・小塩・稲垣・西沢)、如水会館

<http://cis.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/society/conference100928-3.html>

5. 厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業「ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルによる所得保障施策の評価・分析に関する研究」の実施 (研究代表者：稲垣誠一、研究分担者：高山・小塩)

6. 経済産業研究所 (RIETI) との間の調査協力

第 3 回『暮らしと健康に関する調査 (JSTAR)』の実施・分析

第 1 回 JSTAR：データ公開中

II. ディスカッションペーパーの刊行

No.473～No.494 (22 本)

→ 詳細は以下の website 参照。

http://www.ier.hit-u.ac.jp/pie/stage2/Japanese/d_p/index.html

III. 個人別の事業報告・研究実績

青木玲子

1. 2010 年度 研究会の開催

- ①世代間問題研究会 9 回開催 (1 月小川・木原・Warren Sanderson 3 回予定分含む) 共同幹事
報告者: Bob Gregory (Australian National University)・赤池伸一 (科学技術振興機構) 他

2. 2010 年度 研究実績

①論文

Aoki, R. and Schiff, A. (2010), “Intellectual Property Clearinghouses: The Effects of Reduced Transaction Costs in Licensing,” *Information, Economics and Policy*, 22(3), pp.218-227, referred.

青木玲子・Rhema Vaithianathan 「少子化と世代間所得分配の政治経済学」『経済研究』61 (2) , pp.117-125.査読有

②DP

Aoki, R. and J. Small, “The Economics of Number Portability: Switching Costs and Two-Part Tariffs,” PIE/CIS DP- 483, 2010 年 8 月.

Oguro, K., Shimasawa, M., Aoki, R. and Oshio, T. “Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy – A Political Economy Approach,” PIE/CIS DP- 493, 2010 年 11 月.

③新聞記事など

青木玲子「インタビュー 女性経済学者を訪ねて②」経済セミナー、2010 年 6・7 月号

青木玲子「消費、労働供給と出産」経済セミナー、2011年2・3月号 (特集「不況と結構と子育て」 (仮題))

④講演等

青木玲子「経済学の数学」東北大学数学談話会、2010 年 6 月 28 日.

青木玲子「イノベーションと競争政策」法と経済学会、2010 年 7 月 11 日.

青木玲子「科学における知識生産プロセスに関する調査」結果概要 NISTEP「科学における知識生産プロセス」ワークショップ (パネリスト) .

- ・RIETI 産業政策検討会『市場の不確実性と規制制度の設計に関する研究会』情報通信総合研究所
- ・RIETI グローバルイノベーション研究会

⑤その他

総合科学技術会議 有識者議員
同 基本政策専門調査会 委員
同 評価専門調査会 委員
同 生命倫理専門調査会 委員
同 研究開発システムワーキンググループ 委員
同 施策検討ワーキンググループ アドバイザー
財団法人東京経済研究センター 最初の評議員選定委員会委員
日本応用経済学会 理事
文科省委託研究「数学・数理科学と他分野の連携研究プログラム」評価検討会委員
茨城県科学技術振興会議 委員

高山憲之

1. 2010 年度 研究実績

①著書・編著書

Takayama, N. and Werding, M. eds., *Fertility and Public Policy*, MIT Press, December 2010, forthcoming.

Takayama, N. ed., *Priority Challenges in Pension Administration*, Maruzen, Co. Ltd., March 2011, forthcoming.

②論文

高山憲之・白石浩介「米国型 EITC の日本への導入効果」『経済研究』61 (2)、2010 年 4 月、pp. 97-116. 査読有

高山憲之「諸外国における社会保障番号制度と税・社会保険料の徴収管理」『海外社会保障研究』172 号、2010 年 9 月、pp. 4-16.

Takayama, N., “Pension Issues in Japan: How Can We Cope with the Declining Population” in Ito, T. and Rose, A. eds., *The Economic Consequences of Demographic Change in East Asia*, University of Chicago Press, October 2010, pp.167-192, referred.

③DP

高山憲之・白石浩介「わが国世帯における消費税の負担水準」PIE/CIS DP-491, 2010年10月.

④雑誌記事等

高山憲之「年金改革：円卓会議を設置し超党派で検討を」週刊社会保障、2010 年 5 月 3～10 日号

高山憲之「持続可能で国民が納得できる年金制度に向けて」ザ・リバティ、2010 年 6 月号

高山憲之「事業所ベースでは 9.2%にもものぼる厚生年金保険料滞納率」週刊ダイヤモンド、2010 年 6 月 5 日号

高山憲之「研究者から見た『ねんきん定期便』のあり方」FP ジャーナル、2010 年月 8 号

高山憲之「年金記録回復はペースダウン中 実務に精通した職員解雇のツケ」週刊ダイヤモンド、2010年8月14日号

高山憲之「消えた高齢者を再び生まれよう行政サービス受給者番号導入を」週刊ダイヤモンド、2010年10月30日号

高山憲之「年金」(『現代用語の基礎知識 2011年版』自由国民社、2010年11月、所収)。

⑤新聞記事等

高山憲之「年金対策は万全か」日本農業新聞、2010年6月2日。

高山憲之「参院選 公約点検：超党派の合意に多い課題」共同通信、2010年7月5日。

高山憲之「子ども手当：全額支給、控除廃止なら・・・」毎日新聞、2010年9月14日。

高山憲之「老年者控除の復活では格差拡大に」時事通信、2010年9月14日。

⑥講演

高山憲之「世代間問題としての年金」一橋大学政策フォーラム：年金の将来、如水会館、2010年9月28日（フォーラムの概要は2010年10月27日付けの日本経済新聞誌上で一面広告された）。

⑦その他

年金業務監視委員会委員

小塩隆士

1. 2010年度 研究実績

①論文

(査読制度つき雑誌・単行本に掲載されたもの)

Takashi Oshio, Kayo Nozaki, and Miki Kobayashi, "Relative income and happiness in Asia: Evidence from nationwide surveys in China, Japan, and Korea," *Social Indicators Research*, forthcoming.

Takashi Oshio and Miki Kobayashi, "Area-level income inequality and individual happiness: Evidence from Japan," *Journal of Happiness Studies*, forthcoming.

Kunio Urakawa and Takashi Oshio, "Comparing marginal commodity tax reforms in Japan and Korea," *Journal of Asian Economics*, forthcoming.

Takashi Oshio, Akiko Sato Oishi, and Satoshi Shimizutani, "Social security reforms and labor force participation of the elderly in Japan," *Japanese Economic Review*, forthcoming.

Takashi Oshio, Shinpei Sano, Yuko Ueno, and Koichiro Mino, "Evaluations by parents of education reforms: Evidence from a parent survey in Japan," *Education Economics*, 18(2), 2010, pp.229-246.

Takashi Oshio, Shinpei Sano, and Miki Kobayashi, "Child poverty as a determinant of life outcomes: Evidence from nationwide surveys in Japan," *Social Indicators Research*, 99(1), 2010, pp.81-99.

Takashi Oshio and Miki Kobayashi, "Income inequality, perceived happiness, and self-rated health: Evidence from nationwide surveys in Japan," *Social Science & Medicine*, 70(9), 2010, pp.1358-1366.

Satoshi Shimizutani and Takashi Oshio, "New evidence on the initial transition from career job to retirement in Japan," *Industrial Relations*, 49(2), 2010, pp.248-274.

(その他)

Takashi Oshio, Shinpei Sano, and Kaori Suetomi, "Estimate of the production function education: Combined junior/senior high schools," *The Japanese Economy*, 37(2), 2010, pp.83-119.

②書籍

小塩隆士『再分配の厚生分析—公平と効率を問う—』日本評論社、2010年6月。

③DP

Takashi Oshio and Miki Kobayashi, "Association of smoking and drinking with socioeconomic factors: A comparative study based on bivariate probit model analysis," PIE/CIS DP-476, 2010年6月。

Kazumasa Oguro, Takashi Oshio, and Junichiro Takahata, "Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy," PIE/CIS DP-482, 2010年8月。

Takashi Oshio and Satoshi Shimizutani, "Disability Pension Program and Labor Force Participation in Japan: A Historical Perspective," PIE/CIS DP-485, 2010年9月。

Takashi Oshio, Kayo Nozaki, and Miki Kobayashi, "Relative income and happiness in Asia: Evidence from nationwide surveys in China, Japan, and Korea," PIE/CIS DP-487, 2010年10月。

Kazumasa Oguro, Manabu Shimasawa, Reiko Aoki, and Takashi Oshio, "Demographic change, intergenerational altruism, and fiscal policy: A political economy approach," PIE/CIS DP-493, 2010年11月。

Masakazu Hojo and Takashi Oshio, "What factors determine student performance in East Asia? New evidence from TIMSS 2007," PIE/CIS DP-494, 2010年12月。

④国際会議における報告

Takashi Oshio and Satoshi Shimizutani, "Disability pension program and labor force participation in Japan: A historical perspective," National Bureau of Economic Research, International Social Security, in Lisbon, May 28-29, 2010.

⑤講演

小塩隆士「所得格差と健康・幸福度」同志社大学商学部学術講演会, 2010年11月12日。

⑥その他 (一般誌への寄稿)

小塩隆士「強い社会保障」を考える『週刊社会保障』2010年7月19日号, pp.46-51.

⑦兼職・及び政府関係審議会・研究会委員

神戸大学経済学部非常勤講師「法経総合概論Ⅱ」(2010年度後期)

文部科学省中央教育審議会大学分科会学生支援検討ワーキンググループ委員

財務省財務総合政策研究所「人材の育成・活用に関する研究会」委員
国立社会保障・人口問題研究所『季刊社会保障研究』編集委員会委員
日本学生支援機構政策企画委員会委員

⑧受賞

第53回日経・経済図書文化賞受賞『再分配の厚生分析—公平と効率を問う—』（小塩隆士、日本評論社、2010年6月刊）2010年11月。

稲垣誠一

1. 2010年度 研究実績

①論文

(査読制度つき雑誌・単行本に掲載されたもの)

Seiichi Inagaki, “The Effects of Proposals for Basic Pension Reform on the Income Distribution of the Elderly in Japan,” *The Review of Socionetwork Strategies*, Vol.4, Springer Japan, 2010, pp.1-16.

(その他のもの)

稲垣誠一「2030年の高齢者像と年金制度改革—マイクロシミュレーションモデルによる分析—」
国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障の計量モデル分析—これからの年金・医療・介護』東京大学出版会、2010年4月、pp.279-302.

稲垣誠一「マイクロシミュレーションモデルを用いた公的年金の所得保障機能の分析」『季刊・社会保障研究』第46巻第1号、2010年6月、pp.23-34.

②DP

稲垣誠一「マイクロシミュレーションモデルによる年金制度改革案の政策評価」一橋大学経済研究所世代間問題研究機構ディスカッションペーパー486号、2010年9月。

③学会・国際会議報告

稲垣誠一「マイクロシミュレーションモデルによる世帯の将来推計」日本人口学会第62回大会、お茶の水大学、2010年6月11-13日。

稲垣誠一「公的年金・私的年金の役割分担の再検討：三層型からリレー型へ」第30回日本年金学会総会・研究発表会、JJK会館、2010年10月21-22日。

Seiichi Inagaki, “The Public Pension System and the Option of the Pension Reforms in Japan—based on Microsimulation Analyses—,” International Symposium on Social Safety Nets in Selected Asian Countries, Soul, October 28–29, 2010.

④雑誌記事等

稲垣誠一「人口」ブリタニカ・ジャパン株式会社『ブリタニカ国際年鑑 2010』2010年4月、pp.257-258.

稲垣誠一「クウェートの公的年金制度」『月刊企業年金』2010年6月号、pp.34-37.

⑤講演

稲垣誠一「年金制度改革の移行措置」一橋大学政策フォーラム：年金の将来、如水会館、2010年9月28日.

⑥世代間問題研究会の開催（共同幹事）

小林慶一郎

1. 2010年度 研究実績

①論文

Kobayashi Keiichiro, Nakajima Tomoyuki and Inaba Masaru, “Collateral Constraint and News-driven Cycles,” *Macroeconomic Dynamics*, 2010, forthcoming, 査読有

Kobayashi Keiichiro and Nutahara Kengo, “Nominal Rigidities, News-Driven Business Cycles, and Monetary Policy,” *The B.E. Journal of Macroeconomics*: Vol. 10: Iss. 1 (Contributions), Article 24, 2010, 査読有

Akiyoshi Fumio and Kobayashi Keiichiro, “Banking crisis and productivity of borrowing firms: Evidence from Japan,” *Japan and the World Economy*, vol. 22(3), pp. 141-150, 2010, 査読有

②新聞記事等

小林慶一郎「アメリカ経済をめぐる3つの疑問」（『現代アメリカ』（渡辺靖編）第2部第5章、有斐閣、所収）、2010年11月.

小林慶一郎 朝日新聞「ザ・コラム」欄、月1回の連載（2010年8月に連載終了）

小林慶一郎『週刊ダイヤモンド』「データフォーカス」欄、2ヶ月に1回の連載

小林慶一郎「2011年の経済の展望に関する座談会（仮題）」『週刊文春』12月14日号（掲載予定）

小林慶一郎「過去数年のベストな経済書（仮題）」『週刊東洋経済』12月（掲載号未定）

③講演

小林慶一郎「日本の経済政策の課題」JETRO 日中有識者対話、クラブ関西（上海）

④その他

国際経済交流財団研究会委員

堀雅博

1. 2010年度 研究実績

①論文

（査読制度つき雑誌・単行本に掲載されたもの）

Hsieh, C.T., S. Shimizutani, and M. Hori, "Did Japan's Shopping Coupon Program Increase Spending?" *Journal of Public Economics*, Vol. 94 (7-8), August 2010, pp. 523-529.

Wilson, T., L. Teo, and M. Hori, "The Impact of Globalization on Economic Development in Myanmar," *Globalization and Economic Development in the Mekong Economies* (Suiwah Leung, Ben Bingham, and Matt Davies eds.) Edward Elgar publishers, UK, July 2010, pp. 133-151.

(その他のもの)

濱秋・堀・前田・村田 「家族関係、就労、退職金及び教育・資産の世代間移転に関する世帯アンケート調査」『経済分析』第184号(資料)、内閣府経済社会総合研究所、2011年3月刊行予定.

②DP

(年度内公表が確実なものを含む)

濱秋・堀・前田・村田 「遺産相続、学歴及び退職金の決定要因に関する実証分析について」ESRI Discussion Paper Series No.254、内閣府経済社会総合研究所、2010年12月.

Hamaaki, J., M. Hori, S. Maeda, and K. Murata, "Adjustments of the Japanese Employment System to the Lost Decade," PIE/CIS DP, forthcoming.

Hamaaki, J., M. Hori, S. Maeda, and K. Murata, "How does the first job at graduation matter for female workers in Japan," PIE/CIS DP, forthcoming.

Hori, M., and M. Kawagoe, "Inflation Expectations of Japanese Households: Evidence from Monthly Consumer Confidence Survey," PIE/CIS DP, forthcoming.

③学会・国際会議報告

濱秋・堀・前田・村田 "The Japanese Employment System is Degenerating," 日本経済学会春季大会、2010年6月5日.

堀・前田・濱秋・村田 「新卒時就職活動の失敗は挽回可能か? 家計研パネルの個票を用いた女性就業の実証分析」日本経済学会春季大会、2010年6月6日.

堀・濱秋 「経済環境の変化と日本的雇用慣行」 2010年 ESRI 国際コンファレンス『世界金融危機後のマクロ経済学のフロンティア』、2010年6月24日.

2. その他

・内閣府経済社会総合研究所 客員主任研究官 (2010年8月～)

・内閣府「『定額給付金等の給付施策が家計の消費行動に与えた影響に関する推計・分析』に関する研究会」(仮称) 委員 (2010年12月～)

3. 2011年度 事業計画 (案)

①ミクロ・データを用いた我が国世帯の経済行動と政策効果に関する研究

本研究では、消費に係る「恒常所得仮説」の日本における現実妥当性を中核に据えつつ、世帯調査の個票データを用いて、80年代以降に生じた世帯構造や資産分布の変化を特定し、それが消費者行動及び政策効果に与えた影響を分析する。

②マイクロシミュレーションモデルによる所得保障施策の評価・分析に関する研究

本研究では、稲垣誠一教授らと共同で、ダイナミック・マイクロシミュレーションモデルを用い、日本社会の将来における世帯構造、所得、税・社会保険料負担等について、世帯・個人単位での政策シミュレーション分析等を行う。

小黒一正

1. 2010年度 研究実績

①著書

小黒一正『2020年、日本が破綻する日』日本経済新聞出版社、2010年

城繁幸・小黒一正・高橋亮平『世代間格差ってなんだ』PHP研究所、2010年

②論文

Oguro, K., "Japan's Looming Financial Collapse," *Asia-Pacific Review*, 17 (2), pp.118-138, October 2010.

小黒一正「対外直接投資と法人税に関する実証分析」『季刊政策分析』第6巻第3・4合併号, pp.19-30, 2010年.

Shimasawa, M., and Oguro, K., "The Impact of Immigration on the Japanese Economy: A Multi-Country Simulation Model," *Journal of The Japanese and International Economies*, 2010.

Shimasawa, M., and Oguro, K., "The Impacts of Global Recession on the World Economy: An Investigation with a Multi-country Overlapping Generations Simulation Model," *Financial Markets and the Global Recession*, Nova science Publishers, Inc., June 2010.

③DP

小黒一正・島澤諭・高畑純一郎「子育て支援と世代間効用—人口内生 OLG モデルの視点から—」ESRI Discussion Paper Series, forthcoming.

Oguro, K., Shimasawa, M., Aoki, R., and Oshio, T., "Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy—A Political Economy Approach—," PIE/CIS DP-493, 2010年11月.

Oguro, K., Oshio, T., and Takahata, J., "Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy," PIE/CIS DP-482, 2010年8月.

佐藤主光・小黒一正「首都直下地震がマクロ経済に及ぼす影響についての分析」ESRI Discussion Paper Series, No.239, 2010年7月.

Oguro, K., Oshio, T., and Takahata, J., "Educational Support and Individual Ability with Endogenous Fertility," RIETI Discussion Paper Series, 10-E-019, April 2010.

④学会・国際会議報告

Oguro, K., "Educational Support and Individual Ability with Endogenous Fertility" (with Oshio and Takahata), 日本経済学会、千葉大学、2010年6月6日.

⑤新聞記事等

Oguro, K., “No Stopgap Measures Effective: Accept Foreign Labor for Fiscal Consolidation, Economic Growth,” JAPAN SPOTLIGHT, February/January 2010.

小黒一正「「成長の壁」と財政の破綻確率——成長で財政は再建できるか？」経済セミナー（2010年10・11月号）

小黒一正「政策研究 子ども手当は成長戦略に資するか？」IIPS Quarterly 第1巻第1号（創刊号）、2010年10月.

小黒一正「消費税率 25%を受け入れるべき 財政・社会保障の再生はオバマの信念と行動力に学べ」日経ビジネス ON LINE、2010年12月2日.

小黒一正「世代間格差は事前積立の導入で解決できる 迷走する「高齢者医療新制度」は格差の視点を欠く」日経ビジネス ON LINE、2010年11月11日.

小黒一正「サンデル教授に問いたい「搾取」の正当性 進む「財政的幼児虐待」と「民主主義」の欠陥」日経ビジネス ON LINE、2010年10月14日.

小黒一正「経済成長に頼る財政再建はギャンブル——成長が金利を常に上回るとは限らない」日経ビジネス ON LINE、2010年9月30日.

小黒一正「「政府の借金は内国債だから問題ない」は本当か？欠けている「世代交代」の視点」日経ビジネス ON LINE、2010年9月16日.

小黒一正「漂流する日本政治、カウントダウンが始まった財政破綻」日経ビジネス ON LINE、2010年9月9日.

小黒一正「外国からの人材受け入れマクロ経済にはプラス」日本経済新聞・経済教室、2010年9月8日.

⑥講演

小黒一正「財政・社会保障の再生プランー財政の持続可能性と世代間公平の同時達成に向けてー」経済同友会「社会保障改革委員会」、2010年10月29日.

小黒一正「財政・社会保障の再生プランー財政の持続可能性と世代間公平の同時達成に向けてー」慶應義塾大学 Global COE Program「市民社会におけるガバナンスの教育研究拠点」カンファレンス（政策形成分析ユニット主催）、2010年10月18日.

⑦その他

国立社会保障・人口問題研究所「社会保障モデルの評価・実用化事業」プロジェクト委員（2007年11月～）

財務総合政策研究所コンサルティングフェロー（2010年9月～）

経済産業研究所コンサルティングフェロー（2008年9月～）

田中秀明（-7/31まで）

1. 2010年度 研究実績

①論文

田中秀明「財政規律と予算制度改革－予算制度の国際比較及び計量的分析」、博士論文、政策研究大学院大学、2010年7月21日。

②書籍

田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社、2011年刊行予定。

③DP

田中秀明「税・社会保険料の負担と社会保障給付の構造－税制と社会保障制度の一体改革に向けて」PIE/CIS DP-481, 2010年7月。

④学会等での発表

田中秀明「国立大学法人の評価と運営費交付金－第1期中期目標期間の検証」日本高等教育学会第13回大会、関西国際大学、2010年5月29日。

Hideaki Tanaka, “Program Review in Japan,” 31st Annual Meeting of OECD Senior Budget Officials, Athens, June 3–4, 2010.

田中秀明「財政規律と予算制度改革－予算制度の分析」経済研究所定例研究会、2010年7月28日。

⑤新聞等

田中秀明「国立大学評価制度問題山積」日本経済新聞、2010年7月26日。

⑥審議会

中期的な財政運営に関する検討会委員、国家戦略室。

植杉威一郎（-7/9まで、7/10- 非常勤研究員）

1. 2010年度 研究実績

①論文

Ichiro Uesugi, Koji Sakai, and Guy M. Yamashiro, “The Effectiveness of Public Credit Guarantees in the Japanese Loan Market,” *Journal of the Japanese and International Economies*, forthcoming.

Koji Sakai, Ichiro Uesugi, and Tsutomu Watanabe, “Firm Age and the Evolution of Borrowing Costs: Evidence from Japanese Small Firms,” *Journal of Banking and Finance*, Vol. 34, No. 8, August 2010, pp.1970-1981.

②DP

植杉威一郎・岡室博之・平田英明・大久保俊亮「製造業集積地における企業間のつながり－取引ネットワークに関するアンケート調査の結果概要」一橋大学産業・金融ネットワークセンター WP002, 2010年12月。

Hirofumi Uchida, Iichiro Uesugi, and Masaki Hotei, “Repayment Enforcement and Informational Advantages: Empirical Determinants of Trade Credit Use,” RIETI Discussion Paper Series (10-E-41), June 2010.

Kentaro Nakajima, Yukiko Saito, and Iichiro Uesugi, “Measuring Economic Localization: Evidence from Japanese Firm-level Data,” RIETI Discussion Paper Series (10-E-30), June 2010.

③新聞記事等

植杉威一郎「中小企業金融の現状と課題」『月刊金融ジャーナル』1月号（予定）.

植杉威一郎・渡部和孝「経済教室－中小企業金融の特徴と問題点」日本経済新聞、2010年9月14日.

池永肇恵（-7/31まで）

1. 2010年度 研究実績

①DP

Ikenaga, T. and Kawaguchi, D. “Labor-Market Attachment and Training Participation,” PIE/CIS DP- 479, 2010年7月.

②研究会報告

Toshie Ikenaga and Ryo Kambayashi, “Long-term Trends in the Polarization of the Japanese Labor Market: The Increase of Non-routine Task Input and Its ? Valuation in the Labor Market,” 関西労働研究会、2010年6月25日.

以上